

令和4年度
地域生涯学習活動実践交流セミナー

上川管内中部ブロックの取組

令和5年2月9日（木）

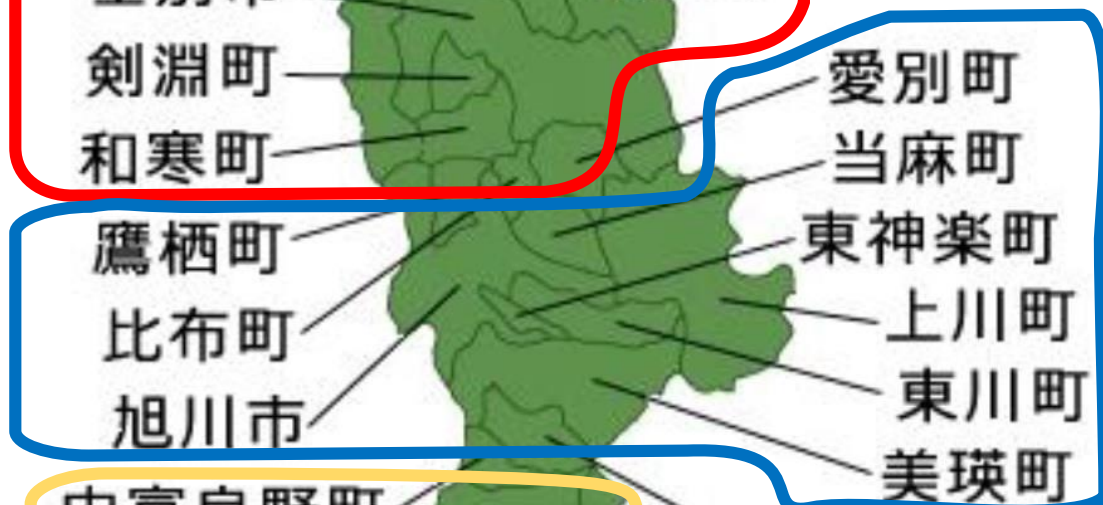
発表者／鷹栖町教育委員会・山本

北部ブロック

上川総合振興局



《本日紹介》
中部ブロック



南部ブロック

上川管内中部ブロック【R 2～4における研究のステップ】

Step1 共通理解	1. 「自己肯定感」について共通認識を持つ 2. 「連携」と「協働」について共通認識を持つ 3. 自己肯定感を高める既存の取組を整理する 4. 行政と地域住民が連携／協働した既存の取組を整理する	R 2
Step2 方針決定	中部ブロックにおける研究方針の検討・決定	R 2
Step3 目標設定	研究方針に基づく研究事業の到達目標の設定	R 2
Step4 実践	各市町における研究の実践／全体での研究進捗共有	R 3
Step5 まとめ	各市町における研究成果報告／全体での討議・交流	R 3
Step6 深める	全体討議をふまえてブラッシュアップした事業の実践 【研究成果を各市町の事業改善・発展につなげる】	R 4

Step 1 共通理解

サブテーマに設定された「自己肯定感」「自己有用感」ってそもそも何だろう。



中部ブロック全体として共通認識を持って進めていくことから始めよう！

《私たち自身の“学び”からスタート》

- 自己肯定感を構成する要素とは
- なぜ自己肯定感が必要なのか？低いとどうになってしまうのか。
- 自己肯定感を低下させる要因とは。
- 自己肯定感が高い人に見られる特徴はこれ！
- 自己肯定感を高めるには？「他者による働きかけ」と「自分自身の心がけ」
- 自己有用感とは。高い人・低い人の特徴、高める方法とは。

【GOOD！】ブロック会員全員が同じ認識をもって研究をスタートできた

Step 1 共通理解

研究テーマの「連携」と「協働」とは？

連携と協働 (同じ目的を共有する複数の人たちが協力して物事を行うこと)



同じ目的を持つ人たちがつながり、
協力し合って物事を行うこと。

&

同じ目的を持って活動する組織を
どのようにして結びつけていくかという動き。



同じ目的の達成のために、
人々が協力し合って働くこと。

&

幅広い組織と、**企画段階から一緒に**
作り上げていく動き。

【GOOD！】ブロック会員全員が同じ認識をもって研究をスタートできた

Step 1 共通理解

既存の取組を整理してみる

令和2年度上川管内社会教育実践研究事業
第2回中部ブロック研究会事前提出シート

市町名

鷹栖町

自己肯定感を高める既存の取組		
①	事業名	わくわくチャレンジ合宿（通学合宿）
	事業内容	共同生活による自主性・協調性を高める。日々の生活習慣の見直し。体験活動への関心向上。
自己肯定感が高まる対象		小学生
自己肯定感を高める要素		調理体験等、身の回りのことを自分でこなすことによる自己効力感の向上。 他人との共同生活、グループ活動を通しての自己有用感の向上。
②	事業名	高校生プロジェクト（R2新規）
	事業内容	高校生世代のまちづくりへの興味・関心の向上。
自己肯定感が高まる対象		高校生
自己肯定感を高める要素		ワークショップ等を通じて他人の考えを知る、取り入れることでの自己受容感の向上。 自主的に事業や企画に取り組むことでの自己決定感、自己効力感の向上。

行政と地域住民が連携／協働した既存の取組		
①	事業名	寺子屋（主催：社会福祉協議会）
	事業内容	長期休暇や放課後での地域住民による小学生への学習指導
区分（連携or協働）		協働
連携・協働母体		地域住民
補足説明		学習のみならず、休憩時間での昔遊び等による交流も実施。
②	事業名	たかす雪ん子隊
	事業内容	社会福祉法人（障がい者福祉施設運営）との共催による子ども向け体験活動
区分（連携or協働）		連携
連携・協働母体		社会福祉法人
補足説明		障がい者との交流による、子どもたちの心のバリアフリーの育み。

Step 2 方針決定

中部ブロックにおける研究方針の検討・決定

地域づくりの担い手育成



課題

行政と地域住民の連携・協働



課題解決のための手段

自己肯定感の高い若年層の育成



課題解決手段を考える切り口

研究方針

自己肯定感の高い若年層を育成するための、行政と地域住民が連携・協働した取組・仕組を考え実践し、取組・仕組のターゲットとなった若年層、そして、連携・協働した地域住民の自己肯定感の変容を検証する。

Step 3 目標設定

研究方針

自己肯定感の高い若年層を育成するための、行政と地域住民が連携・協働した取組・仕組を考え実践し、取組・仕組のターゲットとなった若年層、そして、連携・協働した地域住民の自己肯定感の変容を検証する。

R 3 到達目標

自己肯定感の高い若年層を育成するための、行政と地域住民が連携・協働した取組・仕組を考える。



R 4 実践目標

考えた取組・仕組を各市町で実践する。



R 4 以降目標

取組・仕組のターゲットとなった若年層、そして、連携・協働した地域住民の自己肯定感の変容を検証する。

Step 4 実践

R3到達目標

自己肯定感の高い若年層を育成するための、行政と地域住民が連携・協働した取組・仕組を考える。

「考えるための検討材料を収集しよう」

カテゴリ【相手】

地域の団体

- 社会教育団体
- 各青年団
- 公民館（関係者）
- 自治会／町内会
- 町内サークル
- 市民委員会
- 子ども会
- 高齢者大学・老人会
- 異業種

学校関係

- P T A
- 高校のボランティア部

行政の横連携

- 他部署／他課係イベントとの連携
- 子ども向け事業参加者

個人

- 地域のキーパーソン

Step 4 実践

R3到達目標

自己肯定感の高い若年層を育成するための、行政と地域住民が連携・協働した取組・仕組を考える。

「考えるための検討材料を収集しよう」

カテゴリ【手段】

地域住民に「聞く」

- P T A役員に役員会の時にインタビュー
- 活動の終わりに人が集まっているところにインタビュー
- 活動後にインタビューさせてもらう
- 町内サークルへの訪問
- 地域の若年層に直接聞く
- 公民館の人に聞いてみる
- 公民館活動や地域のキーパーソンから直接聞き取り

アンケート調査

- Googleフォームとかでまず聞いてみる
- イベント終了後のアンケート（調査）
- 「若年層」を対象にアンケートを実施
- 施設利用者（団体サークル等）へのアンケート調査

場をつくる

- 意見交換会の実施
- 集会の開催

Step 4 実践

R3到達目標

自己肯定感の高い若年層を育成するための、行政と地域住民が連携・協働した取組・仕組を考える。

「考えるための検討材料を収集しよう」

カテゴリ【方法】

課題から切り込む

- 困っていることは何？
- なぜ参加する人が少ないのか？
- 世代交代ができない理由？

意図を伝える

- 共通認識をはかる場の設定
- 課題共有、目指す姿の共有
- 収集したい情報を明確にする
- 事例の提示

キーワードの提示

- ESD
- 持続（SDGs）



Step 4 実践

R 3到達目標

自己肯定感の高い若年層を育成するための、行政と地域住民が連携・協働した取組・仕組を考える。

「考えるための検討材料を収集しよう」

★既存の取組シートに記載した事業の活用【各市町で研究】

《ポイント①》地域の人たちがどんな関わりをしているのか

《ポイント②》改善すべき点・工夫できる点を見つける

《ポイント③》R 3にできるものはやってみる！

既存事業ブラッシュアップ
R 4実践目標につなげる

自己肯定感を高める既存の取組		
①	事業名	わくわくチャレンジ合宿（通学合宿） → 運営として関わる地域の人があるはず → 「聞く相手」
	事業内容	共同生活による自主性・協調性を高める。日々の生活習慣の見直し。体験活動への関心向上。
自己肯定感が高まる対象		小学生 → 参加者として関わっている人・団体
自己肯定感を高める要素		調理体験等、身の回りのことを自分でこなすことによる自己効力感の向上。 他人との共同生活、グループ活動を通しての自己有用感の向上。 → 管内や全道の研修・講演から、「改善すべき点はどこだろう」「工夫できる点はないだろうか」
②	事業名	高校生プロジェクト
	事業内容	高校生世代のまちづくりへの興味・関心の向上。
自己肯定感が高まる対象		高校生
自己肯定感を高める要素		ワークショップ等を通じて他人の考えを知る、取り入れることでの自己受容感の向上。 自主的に事業や企画に取り組むことでの自己決定感、自己効力感の向上。

Step 4 実践

R3到達目標

自己肯定感の高い若年層を育成するための、行政と地域住民が連携・協働した取組・仕組を考える。

「各市町で情報の収集／事業ブラッシュアップに向けた検討・実践」

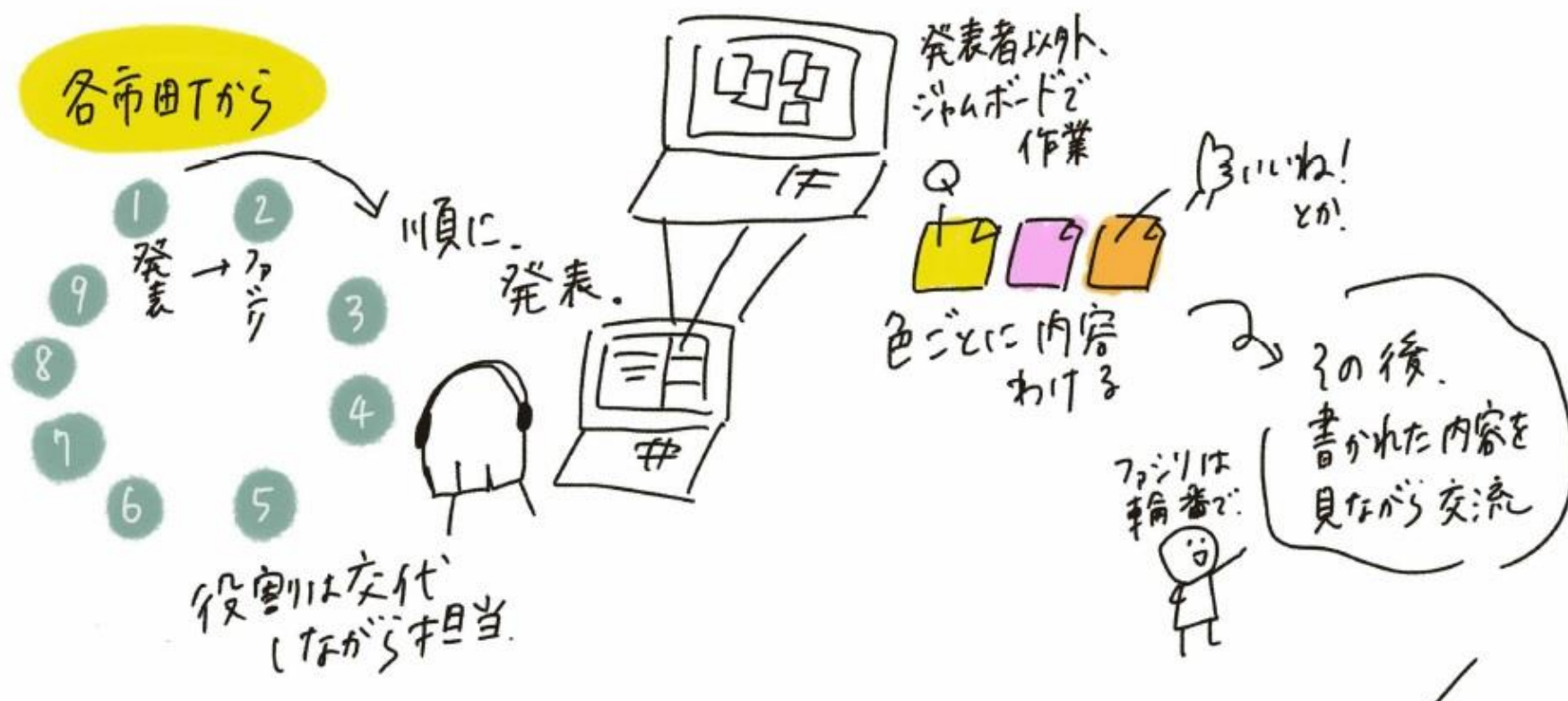
研究課題		行政と地域住民が連携・協働した取組・仕組を考えるための検討材料を収集する	
収集相手		既存の取組シートから「聞く相手」を選定(1つor2つ)	
情報収集	順位		
	手段	各市町で考えていただきたい！ 【集まってもらう、アンケート、個々で聞いてみるetc】	
特性	活動目的 (事業目的)		
	主な取組 地域での役割		
	相手の強み		

Step 5 まとめ

R3到達目標

自己肯定感の高い若年層を育成するための、行政と地域住民が連携・協働した取組・仕組を考える。

「研究結果の全体共有／他市町からの視点・気づきの吸収」



Step 5 まとめ

R3到達目標

自己肯定感の高い若年層を育成するための、行政と地域住民が連携・協働した取組・仕組を考える。

「研究結果の全体共有／他市町からの視点・気づきの吸収」

【美瑛町】

研究課題		行政と地域住民が連携・協働した取組・仕組を考えるための検討材料を収集する	
収集相手		美瑛町少年団育成連絡協議会	高齢者大学の生徒
情報収集	順位	2	1
	手段	役員会の議題とし、アンケートを作成 → 各少年団事務局から各家庭に持ち帰り、話し合っていた → 回収	自治会の議題としアンケートを作成 → 各学年HRへ持ち帰って話し合う → 回収
特性	活動目的 (事業目的)	子ども向け事業の企画・実施	生涯学習を通して学級生相互の親睦を図る
	主な取組 地域での役割	各地域での活動(お祭りなど)・町の少年団どうしの交流の場の提供	小学生との交流・公民館主催のお祭り補助・町内清掃等のボランティア活動
	相手の強み	保育所・幼稚園・小中学生・高校生の子を持つ保護者が各地域から集まっているため、様々な地域や学年の子どもやその保護者の意見を収集しやすい	町に長く住み、昔と比べて町がどう変わったか等、目的を達成するために何が必要かを検討する材料が豊富 / 広いコミュニティを生かして意見を収集しやすい

Step 5 まとめ

R3到達目標

自己肯定感の高い若年層を育成するための、行政と地域住民が連携・協働した取組・仕組を考える。

「研究結果の全体共有／他市町からの視点・気づきの吸収」

⑥美瑛（F_愛別）

親子活動

どうすれば
高まるか？
分からない
人が多い

他の町でどんな
アンケート取っ
てるのが見たい

リアル
な声

各市町のアン
ケートシートも
共有できるとい
いですね。

少年団連協
からの発信
良いです
ね！

こちらは消
えませんでした！

JAMboardをブラウザ
で開いてここに書き込
むとzoomのカメラが映
らなくなるのに今更気づ
きました

発見で
すね！
笑

謎

町内の子どもたち
は全員少年団に
入っているのです
か？

少年団対象
は子どもだ
け対象です
か？

アンケート
を活かした
いですね

ぜひ共有し
ましょう！

コロナ禍におけ
る社会教育事業
の実施は大変で
すね！

アンケート
内容具体的
でいいです
ね！

親に聞くの
いいですよ
ね

Step 5 まとめ

R3到達目標

自己肯定感の高い若年層を育成するための、行政と地域住民が連携・協働した取組・仕組を考える。

「研究結果の全体共有／他市町からの視点・気づきの吸収」

- その場でまとめを可視化できる
- ファシリにとっては議論を進めやすくなる
(オンラインによるグループワーク時)
- そのまま、まとめのシートになる
- 会議後の追記、修正なども可能
⇒さらなる共有にもつなげられるのでは

R3到達目標

自己肯定感の高い若年層を育成するための、行政と地域住民が連携・協働した取組・仕組を考える。

「研究結果の全体共有／他市町からの視点・気づきの吸収」

- 各市町では1つ, 2つのみだが…
 - ⇒全体で10以上の収集相手がまとまり共有することができた
- 収集相手も様々
 - ⇒同じ中部ブロックでもそれぞれの特色が見えてきた
- 同じような活動をしている団体が我が町にもいる
- 同じ目的での事業を実施している
 - ⇒次年度以降への生かしに直結できる

【GOOD!】コロナ禍にすべてオンラインで研究を進められた

Step 6 深める

R 4 実践目標

考えた取組・仕組を各市町で実践する。

自己肯定感を高める既存の取組		
①	事業名	わくわくチャレンジ合宿（通学合宿）
	事業内容	共同生活による自主性・協調性を高める。日々の生活習慣の見直し。体験活動への関心向上。
自己肯定感が高まる対象		小学生
自己肯定感を高める要素		調理体験等、身の回りのことを自分でこなすことによる自己効力感の向上。 他人との共同生活、グループ活動を通しての自己有用感の向上。
②	事業名	高校生プロジェクト
	事業内容	高校生世代のまちづくりへの興味・関心の向上。
自己肯定感が高まる対象		高校生
自己肯定感を高める要素		ワークショップ等を通じて他人の考えを知る、取り入れることでの自己受容感の向上。 自主的に事業や企画に取り組むことでの自己決定感、自己効力感の向上。



R 2～3にかけての研究成果をふまえ
各市町において取組・仕組をブラッシュアップし実践！

Step 6 深める

R 4 実践目標

考えた取組・仕組を各市町で実践する。

【実践市町】 愛別町

【実践事業】 子ども会初級リーダー研修会

【実践概要】

○子ども会活動やリーダーについての基礎を学ぶとともに事業の企画・運営の基礎を学ぶ。

○小学生対象の公民館キャンプ体験事業を利用し、事前研修で学んだこと・企画したことの実践の場としている。

【ターゲット】 町内の小学校高学年～中学生

【実践での行政職員の関わり】

○リーダー養成の教育的指導・助言

Step 6 深める

R 4 実践目標

考えた取組・仕組を各市町で実践する。

【実践市町】 愛別町

【実践事業】 子ども会初級リーダー研修会



Step 6 深める

R 4 実践目標

考えた取組・仕組を各市町で実践する。

【実践市町】 愛別町

【実践事業】 子ども会初級リーダー研修会



Step 6 深める

R 4 実践目標

考えた取組・仕組を各市町で実践する。

【実践市町】 愛別町

【実践事業】 子ども会初級リーダー研修会

【実践のポイント】

- 参加者が主体であることを念頭におく。
- 参加者に考える機会、意思決定させる機会を設定する。



- 子どもたち自身の自己有用感、自己決定感を高める。
- 関わる側（行政）としての関わり方の変化。

子ども向け事業における“参加者（子ども）”を軸にした実践

Step 6 深める

R 4 実践目標

考えた取組・仕組を各市町で実践する。

【実践市町】 鷹栖町

【実践事業】 放課後チャレンジ塾

【実践概要】

○わくわくチャレンジ合宿（通学合宿）を宿泊を伴わないプログラムに工夫して実施。

○参加する子ども向けの事前研修に加え、保護者向けの事前説明・研修も実施してきた。

【ターゲット】 町内の小学校4～6年生、その保護者

【実践での行政職員の関わり】

○子どもたちへの指導 ○地域住民参画のコーディネート

Step 6 深める

R 4 実践目標

考えた取組・仕組を各市町で実践する。

【実践市町】 鷹栖町

【実践事業】 放課後チャレンジ塾



Step 6 深める

R 4 実践目標

考えた取組・仕組を各市町で実践する。

【実践市町】 鷹栖町

【実践事業】 放課後チャレンジ塾



Step 6 深める

R 4 実践目標

考えた取組・仕組を各市町で実践する。

【実践市町】 鷹栖町

【実践事業】 放課後チャレンジ塾

【実践のポイント】

- 保護者向けの研修に自己肯定感の内容を組み込む。
- 保護者が自己肯定感に対してどの程度理解があるのか。



- 事業中のみならず家庭教育への波及もできれば。
- 小学生の保護者は30～40代が多い。現役世代へのアプローチ。

子ども向け事業における“関わる人（保護者）”を軸にした実践

Step 6 深める

R 4 実践目標

考えた取組・仕組を各市町で実践する。

【実践市町】 当麻町

【実践事業】 当麻町青年会議による町長まちづくり講演会の開催

【実践概要】

○元町職員で青年会議議長も務めた町長の職員・会員時代の経験、まちづくりについての講演を実施。グループワークの意見交流も。

○コロナ禍で2年以上にわたり活動する機会が減り、青年によるまちづくりを推進する会の目的を改めて認識し、意識を高めていく。

【ターゲット】 会の会員、町内の青年層

【実践での行政職員の関わり】

○事務局としての調整 ○各団体への周知・参加者の募集

Step 6 深める

R 4 実践目標

考えた取組・仕組を各市町で実践する。

【実践市町】当麻町

【実践事業】当麻町青年会議による町長まちづくり講演会の開催



Step 6 深める

R 4 実践目標

考えた取組・仕組を各市町で実践する。

【実践市町】 当麻町

【実践事業】 当麻町青年会議による町長まちづくり講演会の開催



Step 6 深める

R 4 実践目標

考えた取組・仕組を各市町で実践する。

【実践市町】 当麻町

【実践事業】 当麻町青年会議による町長まちづくり講演会の開催

【実践のポイント】

- 青年層が主体となった取組を継続、発展させていく。
- 対面形式により新たに参加した方としっかり交流が図れた。



□ 仲間づくりの大切さ、人との関係構築で得られること、地域活動に参加する意義、まちづくりへの意識を高められた。

“青年（若者）” に直接的にアプローチをした実践

Step 6 深める

R 4 実践目標

考えた取組・仕組を各市町で実践する。

自己肯定感を高める既存の取組		
①	事業名	わくわくチャレンジ合宿（通学合宿）
	事業内容	共同生活による自主性・協調性を高める。日々の生活習慣の見直し。体験活動への関心向上。
自己肯定感が高まる対象		小学生
自己肯定感を高める要素		調理体験等、身の回りのことを自分でこなすことによる自己効力感の向上。 他人との共同生活、グループ活動を通しての自己有用感の向上。
②	事業名	高校生プロジェクト
	事業内容	高校生世代のまちづくりへの興味・関心の向上。
自己肯定感が高まる対象		高校生
自己肯定感を高める要素		ワークショップ等を通じて他人の考えを知る、取り入れることでの自己受容感の向上。 自主的に事業や企画に取り組むことでの自己決定感、自己効力感の向上。



R 2～3にかけての研究成果をふまえ
各市町において取組・仕組をブラッシュアップし実践！



R 4以降目標

取組・仕組のターゲットとなった若年層、そして、連携・協働した地域住民の自己肯定感の変容を検証する。

《 3年間のGOOD！ 》

- コロナ禍においても研究を進められた
⇒事業の中止や縮小、対策業務に追われる中、立ち止まらずに研究に取り組んだメンバーに感謝！
- 研究の方向性と到達点が明確であった
⇒前例のないサブテーマの継続に対応できたのでは。対応力UP！
- 各市町で悩んでいた事業の改善につながった
⇒コロナ禍により立ち止まってしまった事業を取り上げることで、マイナスをプラスに変えていけたのでは。
- オンラインのノウハウも学べた
⇒半分ほどはオンラインミーティング。職員としてのスキルアップにもつながったのでは。南部ブロックでは、放課後子ども教室をつないで「オンラインクイズ大会」を実施した事例あり！